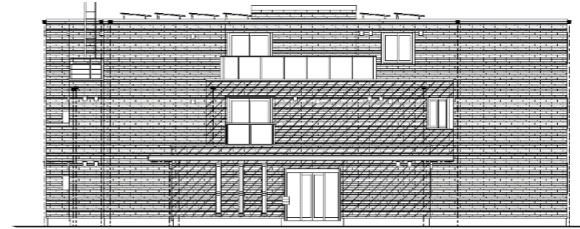


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	医療法人 愛礼会 様邸	階数	地上3階
建設地	愛知県一宮市浅野字紅椋野53番3、54番1、55番1、56番1	構造	S造
用途地域	用途地域指定なし、防火地域指定なし	平均居住人員	120人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年12 予定	評価の実施日	2023年01月25日
敷地面積	2,742 m <sup>2</sup>	作成者	積水ハウス株式会社 名古屋西シャーマゾン支店 一級建築士事務所 武田 敏史
建築面積	758 m <sup>2</sup>	確認日	2023年02月03日
延床面積	2,045 m <sup>2</sup>	確認者	医療法人 愛礼会 理事長 松前 裕己



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.0 ★★★★★</p>	<p>★☆☆☆☆</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q のスコア = 2.6</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 2.9</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 2.8</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 2.1</p>

LR 環境負荷低減性		
<p>LR のスコア = 3.4</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 4.2</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 2.7</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 3.1</p>

3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>4.0</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>4.3 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>2.5</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分			住居・宿泊部分		全体		
				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点		重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>											
<b>Q1 室内環境</b>											
<b>1 音環境</b>											
1.1 室内騒音レベル											
1.2 遮音											
1 開口部遮音性能											
2 界壁遮音性能											
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											
1.3 吸音											
<b>2 温熱環境</b>											
2.1 室温制御											
1 室温											
2 外皮性能											
3 ゾーン別制御性											
2.2 湿度制御											
2.3 空調方式											
<b>3 光・視環境</b>											
3.1 昼光利用											
1 昼光率											
2 方位別開口											
3 昼光利用設備											
3.2 グレア対策											
1 昼光制御											
3.3 照度											
3.4 照明制御											
<b>4 空気質環境</b>											
4.1 発生源対策											
1 化学汚染物質											
4.2 換気											
1 換気量											
2 自然換気性能											
3 取り入れ外気への配慮											
4.3 運用管理											
1 CO <sub>2</sub> の監視											
2 喫煙の制御											
<b>Q2 サービス性能</b>											
<b>1 機能性</b>											
1.1 機能性・使いやすさ											
1 広さ・収納性											
2 高度情報通信設備対応											
3 バリアフリー計画											
1.2 心理性・快適性											
1 広さ感・景観 (天井高)											
2 リフレッシュスペース											
3 内装計画											
1.3 維持管理											
1 維持管理に配慮した設計											
2 維持管理用機能の確保											
<b>2 耐用性・信頼性</b>											
2.1 耐震・免震・制震・制振											
1 耐震性(建物のこわれにくさ)											
2 免震・制震・制振性能											
2.2 部品・部材の耐用年数											
1 躯体材料の耐用年数											
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔											
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔											
4 空調換気ダクトの更新必要間隔											
5 空調・給排水配管の更新必要間隔											
6 主要設備機器の更新必要間隔											
2.4 信頼性											
1 空調・換気設備											
2 給排水・衛生設備											
3 電気設備											
4 機械・配管支持方法											
5 通信・情報設備											

3 対応性・更新性				0.2	2.5	0.29	2.2	2.2	1.00	2.4
3.1 空間のゆとり				0.3	1.4	0.31	1.4	1.4	0.50	
1 階高のゆとり				-	1.0	0.60		1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ				3.0	2.0	0.40		2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				0.3	3.2	0.38				
1 空調配管の更新性			②		3.0	0.17				
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17				
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11				
4 通信配線の更新性				3.0	5.0	0.11				
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22				
			通信配線は空配管(PF管)内に設置されます。							
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30		-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			独自③		1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30		-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性										3.4
LR1 エネルギー					-	0.40		-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI <sub>m</sub> =0.62	3.0	5.0	0.30		-	5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.20		-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI <sub>m</sub> =0.68	3.0	5.0	0.30		-	5.0
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50		-	
集合住宅の評価					-	-	-		-	
4.1 モニタリング					-	-	-		-	
4.2 運用管理体制					-	-	-		-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30		-	-	2.7
1 水資源保護					0.1	3.0	0.15		-	3.0
1.1 節水					3.0	3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	2.4	0.63		-	2.4
2.1 材料使用量の削減					-	2.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-	3.0	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	2.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自		3.0	3.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.3	0.22		-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.5	0.68		-	
1 消火剤					-	-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)					-	4.0	0.50		-	
3 冷媒					3.0	3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境					-	0.30		-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率が74%。	-	4.0	0.33		-	4.0
2 地域環境への配慮					0.3	2.3	0.33		-	2.3
2.1 大気汚染防止					-	3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善					-	2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	2.5	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制			独自		-	3.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制					-	1.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40		-	
1 騒音			独自		-	3.0	1.00		-	
2 振動			独自		-	-	-		-	
3 悪臭					-	-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40		-	
1 風害の抑制					-	3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制					-	-	-		-	
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制					0.2	3.0	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					-	3.0	0.70		-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30		-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

医療法人 愛礼会 様邸

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.0</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.5</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	2.5	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:4.3%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 医療法人 愛礼会 様邸

計画上の配慮事項	
総合	利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。
Q1 室内環境	2.5% ≤ [昼光率]。そして、全館禁煙としている。
Q2 サービス性能	個室15㎡/床。そして、県の条例(整備基準)を満たしており、さらに、バリアフリー新法の建築物移動等円滑化誘導基準(望ましいレベル)を満たしている。また、通信配線は空配管(PF管)内に設置されます。
Q3 室外環境(敷地内)	防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー	BPI <sub>m</sub> =0.62、BEI <sub>m</sub> =0.68。
LR2 資源・マテリアル	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率が74%。
その他	特になし。